

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人旭ヶ丘学園
施設名	鶴ヶ谷保育園
報告者（役職）	渡邊 玲子（園長）
住所・連絡先	宮城県多賀城市鶴ヶ谷 1-11-2
	☎ 022-363-1856
	E-mail senseofwondertsrv@air.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

「感じる」「みつめる」「創る」
～自信と意欲をもって遊びを創り出す子どもたち～

○主な助成備品

- ・カワワログ
- ・ドリームログ
- ・ワンダーパネル
- ・絵本・図鑑
- ・絵本棚
- ・園庭屋台小屋

1. 保育計画策定の目的

鶴ヶ谷保育園は、センスオブワンダー（神秘さや不思議さに目を見はる感性）を土台とした子どもたちの体験が重要であると考え、子どもたちの五感に響く、遊びを中心とした保育を行っています。本園が目標としている「自信と意欲を持って遊びを創り出す子どもたち」の成長を支えるため、日々の実践を深めています。

また、環境が子どもたちの遊びに大きな影響を与えると考え、環境構成には力を入れています。環境には、人工的な素材で作られたものではなく、できるだけ自然素材を使用した五感に訴えかける玩具や遊具を準備したいと考えます。絵本や図鑑に関しても、子どもたちの遊びが動くタイミングや学びが深まるタイミングに合わせ用意していきたいと考えています。

2020年度に公立保育所からの民営化によって鶴ヶ谷保育園が運営していくことになりました。4月からの保育環境を整えていく中で、公立保育所時代から引き継いだ玩具や遊具は、プラスチック製品が多くアニメキャラクターの漫画が散見されました。子どもたちの

五感に響く、遊びを中心とした保育を行うためにも、絵本や図鑑なども質の高いものを準備することが必要でした。

このような事情から、子どもたちと遊びを作っていく過程で、遊具や絵本・図鑑等を充実し、より厳選していく等、私たちが目指す遊び中心の保育の実現に向けた準備をしていきたいと考え、保育計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

いただいた助成金で、以下の玩具を揃え、子どもたちの遊びとそこから生まれる学びの生成に着目しました。

①カワワログとドリームログ

カワワログは、以上児の子どもたちが、自分たちの基地やままごとの場を作ることで、遊びが広がり友だちとのかかわりが増えるようにホールに設置することにしました。ドリームログは、カワワログでの遊びが一端落ち着いたところに、準備しました。ドリームログでの遊びがカワワログでの遊びにどう反映していくかに興味があったからです。

カワワログが園についたとき、子どもたちは「何これ？」と言いながらも興味深く見て触ってみたり持ち上げてみたりしていました。保育者が、こんな風にも使えるよと教えると、早速組み合わせをして試す姿がありました。初めは、単純な組み方で遊ぶ空間を分けるために使っていましたが、徐々に組み方や遊びが複雑化していきました。今では、2階建てや窓や玄関を作ったりして、周囲に車を作ってお出かけに行ったり、ままごとコーナーと行き来するなどして遊んでいます。また、2セット分購入したことで、子どもたちが作る建物が2つ作れることも大きな収穫だったと思います。

ドリームログに関しては、5歳児が組み立てたカワワログの側で、3歳児が何名かであーでもないこーでもないでドリームログを組み立てている姿が見られました。どうやら、5歳児が組み立てたカワワログを真似て、ドリームログを組み立てようとしているようでした。憧れの5歳児のカワワログに思いを馳せる3歳児。カワワログとドリームログには、憧れを形にするという関係性もあるのだと思いました。また、木製の線路と積み木を組み合わせて街を作る姿も見られるようになってきていますが、そこにドリームログが加わることにより、街作りがさらに広がりを見せています。カワワログも、日を追うごとに組み立て方に創意工夫が見られるようになり、子どもたちの遊びの幅を広げる大切な環境を形づくっています。



②ワンダーパネル

未満児の子どもたちが、座ったままでも、立ったままでも「面白そう」「やってみたい」「もう一度やってみたい」等の思いを叶えられるように、0歳児室、1歳児室等に点在させて設置しました。また、何もない廊下ではなく、遊びが見つからなくてウロウロしていたりケンカをしていじけたりしている時に、廊下でふと目が留まる場所にも設置しました。また、未満児だけではなく、以上児の子どもたちも遊べるワンダーパネルも購入できたので、事務室前や給食室前の廊下に設置しました。事務室前の廊下で、ワンダーパネルの色を合わせて完成させ「出来たよ」とお掃除をしている用務の先生と楽しそうに会話を交わす子どもたちの姿も見られます。殺風景だった廊下がワンダーパネルの設置で、子どもたちの好奇心をくすぐり感性を刺激する空間になったと思います。



③絵本棚と絵本・図鑑

絵本と図鑑は、すでに購入していたものに加えて、200冊程度増やすことができました。自然の中から遊びを創り出していくことが多い子どもたちにとって、それに関連した絵本や図鑑を購入しました。

絵本棚は、これまで表紙を前にして収納することができない絵本棚（収納箱のようなもの）であったため、子どもたちの興味と関心が深まるタイミングですぐに手に取れるような絵本棚を購入しました。

各クラス、子どもたちが、今一番興味関心を持っている遊びに関する絵本や図鑑を、絵本棚に表紙が見えるように備えることにより、子どもたちが自ら繰り返し手に取って、読んだり調べたりする環境をつくることが出来ました。また、子どもたちが自ら散歩先で見つけてきた木の実を分類して飾ったり、制作物を展示したり、調べたことを絵にして壁に貼ったりと、絵本棚を起点に子どもたちの遊びの軌跡が可視化される様な環境が広がることも多々ありました。



本園の園庭は広いものの平坦で、周りに遊具が点々とある状態でした。それまで子どもたちの遊びは、遊具で遊ぶか鬼ごっこがほとんどでした。子どもの小さな発見や興味を大事にしていく過程で、園庭には草花や雑草を増やしたり、穴を掘って起伏を作ったりしてきました。そのため、遊びもどんどん増えていきました。そして、ままごとや草花の色水をじっくり楽しめる環境が必要であると考え、日差しや雨を遮るために屋台小屋を畑の側に設置しました。大きい子たちがままごとや草花の色水を作った後に、小さい子たちがやってきて、そのまま置いてあるすり鉢やままごと道具のやかん等を使って遊び出したり、2、3歳児がごっこ遊びのお家やお店にしたり、常に屋台小屋は園庭の遊びの拠点になっています。



3. その成果と評価

今回の助成では、特に未満児とホールの遊具を考えたいと思い、玩具や遊具を選ばせていただきました。

未満児の遊びの環境は、ワンダーパネルや絵本棚の設置で大きく変わり、子どもたちの好奇心をくすぐり感性を刺激する空間になりました。園庭の屋台小屋も未満児がよく遊ぶ拠点になっているので、大きい子の遊びを真似たり、見立てつもり遊びを広げ深める環境を整えることができました。

ホールの環境は、カワワログとドリームログを揃えることにより、3～5歳児にとって、仲間と試行錯誤しながら遊びをつくっていく力を子どもたちの中に育むことにつながりました。

200冊の絵本と表紙を前にして収納することができる絵本棚は、子どもたちの遊びが動くタイミングや学びが深まるタイミングに合わせ絵本や図鑑を用意することが出来、その絵本や図鑑の表紙が見えるように収納する事により、自分たちで絵本や図鑑を取り出し、考えたり調べたり比べたりすることにつながりました。また、子どもたちと一緒に遊びの軌跡を可視化しつつ、環境を考えつくっていく大切さを学ぶことも出来ました。

4. 今後の課題と展望

今回、助成をいただいたことで、子どもたちの遊び、そして遊びの環境がこんなにも変わるものか、と当初考えていた以上の成果を得ることが出来ました。

当園は、現在の敷地の隣に新園舎を建ちあげ、2023年度にこども園に移行する予定です。こども園移行後の保育を考える上でも、今回助成をいただいて保育の環境を整えさせていただいた事は、当園の課題と展望を明確にしました。遊びを中心とした保育を行い、自信と意欲を持って遊びを創り出す子どもたちの成長を支えるためには、子どもたちの興味関心を広げ深める環境、子どもたちの五感に響き好奇心をくすぐる環境が大切であることを、この1年半の実践から改めて痛感しました。

今後は、カワログやドリームログをもう一組揃える、絵本や図鑑をさらに購入する、屋台小屋の周りの園庭の環境を再考する、ワンダーパネルの設置場所の工夫及び数を増やす、絵本棚を中心に子どもたちの遊びの軌跡が可視化できるような保育室の環境構成を考える等々、助成をいただいて揃えた遊具や玩具を起点に、保育の環境をさらに整えていきたいと思っています。

以上